

## 平成 30 年度 第2回西区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 31 年1月 29 日(火)午後 1 時 15 分から
会 場	西区役所健康センター棟 3 階 大会議室
出席者	区自治協議会委員 出席 15 名 教育委員:沢野教育委員、上田教育委員 事務局:教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課課長補佐、坂井輪地区公民館長、坂井輪図書館長、内野中学校長、笠木小学校長、西区教育支援センター所長 区役所:笠原区長、副区長、地域課長 傍聴者:2名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(沢野教育委員、上田教育委員) 3 平成30年度全国学力・学習状況調査新潟市の結果について(学校支援課) 4 意見交換(司会 西区教育支援センター所長)
自治協委員	笠木小学校の活動は、校長先生の発表したとおり、子どもが少ないなどの地域事情もあって、コミ協が非常に活発で地域住民と一緒にあって、子どもも大人もみんなで一つの目的に沿った形で取り組んでいて、素晴らしいなと思いました。 教育委員会からは、今年度の全国学力テスト結果で、西区は例年どおり非常に高い成績だったとの説明がありました。坂井輪地区は教育環境の非常に良い所です。ただ子どもたちが塾通いで勉強に専念ばかりしては、子どもたちの未来を考えたとき何か一つ欠けているのではないのでしょうか。 学力・学習状況調査の結果を先ほど見てみましたが、「家で学校の宿題をしていますか」と「家で学校の授業の復習をしていますか」の質問事項で、小学校から比べると中学校の該当率が減っています。坂井輪地区の子どもたちの多くが塾で勉強しているからです。果たしてこれが良いのか悪いのかということは、議論の余地がありますが、そうした傾向が見られます。 また、「理科の勉強は好きですか」も全国平均より低く、「理科の授業内容はよく分かりますか」はいいとしても、観察力、洞察力ということを考えると、自然に親しむような活動がもう少し必要ではないかと私は思っています。 もう一つ、教職員の働き方改革を進めていかないと、教員採用試験の応募率が低くなってきているため、先生の質が落ちてしまう懸念が出てきています。本来の教職員が行うべき子どもたちと接する、教えるということ以外の雑務が非常に多いのです。ここにおられる方は、地域と学校パートナーシップ事業などによって、もっと地域住民が積極的に学校に関わって、教職員の負担を減らし、教職員が本来の仕事に専念してもらおう時代が来ていることを認識してもらいたいです。

地域教育  
推進課長

学校の先生方の働き方改革を進めてほしい、地域も学校を応援するよといった、学校への応援歌として今のお話を聞かせていただきました。

地域の皆さんから学校に入っただいて、専門的な知識や技能を生かしたお手伝いをしてもらい、学校としてもより充実した学校教育活動を子どもたちに体験してもらいたいという想いをもって、この地域と学校パートナーシップ事業を推進しています。

それぞれの学校の特色ある活動に集中していただきたいと思っています。それが学校に無理なく、地域との連携も進むことになると考えています。私たちはそれを重点化と役割分担と称し、ここ2年ほど意識して進めてきているところです。

自治協委員

区長さんのマニフェストの一つに「地域に愛着を深める」ということが掲げてあります。具体的にどんなことを区長さんとして目指してられるのか、先日の自治協議会第2部会の学習会で聞かせていただきました。その中で区長さんは、人口減少問題が大きな課題だが、それには地域に愛着を持った子どもや大人がいてこそ、西区に住みついてくれる、また都会に一度は出たとしてもUターンして戻ってきてくれる、そういう子どもたちを育てたいと話されていました。それには西区の宝を子どもたちの心の根にしっかりと浸透させていきたい、そして、子どもたちに関わってくれる、本当に心の優しい、地域で活躍し、労をいとわず準備その他をしてくれる素晴らしい大人たちがいることが、西区の宝だともお話をされていました。

教員の働き方改革の課題や、限られた授業時数の中に、あれもこれも詰め込めないという学校の現実がある中で、どうやって子どもの心を育てるのかという、この地区には学校に協力してくださっている、特に地域教育コーディネーターを中心とした地域の方々がいっぱいおられるということ、私はうれしく思いました。

地域課長さんが西区地域盛り上げ隊の話がされました。私は地域を愛する心というのは、まず地域を知ることから始まるのだと思うのですが、知ることだけで終わっているのではやはり物足りない。地域の人と一緒に取り組むことで、そういう体験をここでしたという気持ちが子どもの中にしっかりと根付くと思うのです。そのためにも、知ることから体験につなげていく活動をしていかなければなりません。

俵編みの技術を持ったお年寄りから「おらの地域で自分から手を上げるというのは何だが気がひけるが、誰かが行けて言えば喜んでいくんだ」とお聞きしたことがあります。そういう気質は越後人の中には多少あり、そこをどう打破して、本当に素晴らしい地域人材がたくさんいる西区で多くの方々から協力していただけるようになればよいと思います。

自治協委員

黒崎南小学校が取り組んでいる郷土芸能のことですが、こうした伝承文化は地域の魅力を創出するという意味では非常に重要なことではないかと思っております。しかし、せっかく郷土芸能を覚えても、中学に行く段階になり、そこで終わってしまうと、非常に残念に思います。

また、郷土芸能や郷土料理など食文化に精通している地域の指導者が非常に高

齢化してきていて、いずれは将来立ち行かなくなるのではないかと非常に心配しています。

この教育ミーティングの場で郷土芸能などの地域活動が高く評価され、その継続に学校もぜひ協力してほしいという発信を、教育支援センターから黒崎南小学校にいただければありがたい。私も地域の一員として応援していきたいと思っていますので、お願いでございます。

学校支援課  
課長補佐

西区の宝、地域の宝というお話がありましたが、「ひと」、そして「こと」「もの」が大切なのだと思っています。今のお話の郷土芸能というのはまさに「こと」にあたると思います。それは形として残っているものではないので、先輩から後輩、子どもたちへ伝承していかないと、次の世代に伝わっていかないと面があります。

子どもたちは太鼓だとか踊りであるとか、それを地域の方から学ぶことで、より一層地域に対する誇りや愛着が湧いて、深くなっていくのではないかなとも思います。それをまた自分が大人になったときに後輩たちに伝えていきたいなと思えるのであれば、将来西区に住んで活躍しようということにもつながっていくのではないかなと、お話を伺っていて感じました。

自治協委員

先日、内野中学校の「地域の愛着を育む教育活動」(3学年が行った地域提言)に参加してきました。発表した活動の中で一つでもいいから、3年生が卒業するまでに実現する、実現させてやりたいと思いながら帰りました。その後、地域教育コーディネーターの3人とも何とか3年生の間に、発表した活動を実現させたいよねと話をしました。先ほど内野中学校から、内野地区をイルミネーションで飾ろうという話が出ました。地域課からの支援もあるとのこと、これが実現できるんだなとほっとしたところですが、ほんの小さくても構わないから、自分たちの計画した取り組みの一つが実現したという経験は必要だと思います。

3年生になると受験があるため、少し早めに発表ができれば、発表した活動の中でどれかを実現させられる時間的な余裕もできるので、そうしたことも考えた形で計画していただけるとありがたいです。

地域教育コーディネーターとも、イルミネーションが小さくてもいいよね、広通川とか言っているけれども、いざとなったらコミ協で提案して、3年生が卒業するまでに何とか形作りたいよねというようなことを話している状況です。

内野中学校長

今現在、イルミネーションの見積もりを業者に依頼しています。子どもたちの中にはランニングコストを気にしている者もいて、地域の方からは現実的な問題として、さらなる課題などを提案していただいています。そうした中で、ソーラーのイルミネーションであればランニングコストがかからず、設置場所は学校の敷地内ということになりました。西コミ協から、イルミネーションの設置場所を準備していただけるという話も聞いております。

私立高校の入試が終わった3年生から、どこにどういう形でイルミネーションを設

置するののかといった、さらに絞り込んだ提案をさせていただこうと思っています。子どもたちが高校に通学する時に、自分たちがやったことが現実になっている達成感を味わうことができたり、1年生や2年生が先輩たちはこんな形で地域提言を実現したんだと思うことで、次につながっていく形になったりすると、どういうふうに自分たちが地域に貢献できるかという具体的な視点を見つけることができると思います。将来的には自分の地域、あるいは引っ越し先の、新しい自分の地域になった場所で、どう地域に関わっていくか考えられる子どもを育てられるのではないかと考えています。

お金はかかりますが、行政からの支援やコミ協からの理解もいただきながら、3年生から地域に提言したイルミネーションについては実現の方向で進んでいます。

地域課長

複数名から同じようなご要望をいただきました。西コミセンとか、そういったところも活用しながら、1つでも2つでも、中学生のアイデアを形にすることが非常に大事だと私も強く認識していますので、実現に向けて支援の充実に努めたいと思います。

自治協委員

今年度の、中学生の未来デザインの西区地域盛り上げ隊の中で、黒崎中学校とふれあい協議会との関わりで中学生と談話させてもらいました。私たちコミ協から、子どもたちにミッションとして地域課題を投げかけて、子どもたちがそれに対してアイデアを寄せてくれるというやり方でした。コミ協のみんなで何を考えてもらえばいいだろうというところから考えましたが、子どもたちの意見をほしいなと思うことがたくさんあって、その中から防災活動をミッションとしてお願いしました。これを一つの機会にして、中学校の皆さんと関わりができればいいなという思いで、西区地域盛り上げ隊に参加させてもらいました。

自治協委員

坂井東の民生委員ですが、坂井東小学校では大変地域も盛り上がっていて、私たち自治会も大勢の役員方や普通の方がボランティアとして学校に入り込んでいます。それでちょっとお尋ねしたいのですが、笠木小学校長から授業補助として、地域の方が入り、大変活性化しているとの話がありましたが、具体的な事例で紹介していただきたいなと思います。

笠木小学校長

当校は児童数が少ないので、田畑の活動すべてに地域の方に関わっていただいている実情があります。今までは子どもの見えない所で、地域の皆さんが準備や畝を作っていただいていたのですが、今年度から畝づくりも種を植えるところもすべて子どもたちと一緒にやっていただくようにしたことで、子どもたちも僕たちがやったという自信につながり、大変良い活動だったなと思っています。

田畑の活動以外にも家庭科での調理実習やミシン、習字などの様々な教育活動の中に、地域のボランティアさんに入ってもらい、ご協力をいただいています。

内野中学校長 内野中学校でも授業の補助として、例えば数学の授業でチーム・ティーチング(複数の教師による指導)に地域のボランティアから入っていただいています。それが広がってきて、今では英語や家庭科、調理実習にも入ってもらっています。また、総合的な学習の時間で、内野の盆踊りなど地域文化に関わるという入り方で地域の公民館活動をしている地域の方から入ってもらっています。他にも1年生に対して読み聞かせボランティアをしてくださる方もいらっしゃいます。

こうした授業の中にボランティアが入ってもらえることの、何が良いのかといいますと、子どもが授業の内容でつまづいたときに聞ける大人が周りにいることで、授業が分からなくて投げ出す子どもの数が減るのです。子どもの安定ということを考えたときに、学校の荒れを未然に防止する効果もあると思っています。集団の中で付いていけない子どもが別室で勉強するときに、学びたいときに、学びたいことが聞ける環境というのは、その子のやる気を増加させる効果があると思っています。

また、夏休みの課題や宿題をプリントでたくさん出すのですが、その印刷をお手伝いしてくださるボランティアも来ていただけるので、その分、教員は教材の研究にあてたり、子どもの対応ができたりするので、とてもありがたいです。特に、賞状の名前を書いていただけるのが本当にありがたいです、内野中学校は生徒数が多く、部活動も盛んなため、いろんな大会で賞状をもらってきます。それをボランティアさんがさささと子どもたちの名前を書いてくださるので、朝会での表彰で、すごい達筆で自分の名前が書かれた賞状をもらえ、子どもたちも喜んでますし、われわれ教員も本当に助かっています。地域の方にどんどん学校に入っていただくことはありがたいなと思っています。

坂井輪地区  
公民館長

公民館ではふれあいスクール事業をやっています、教育ビジョンにあります学・社・民の融合の中の一つとして、学校と社会教育、それから民であります地域との結びつきに取り組んでいます。西区では4カ所の地区公民館があり、普段は公民館を会場に講座などをやっていますが、公民館を出て、学校を会場にお借りしまして、公民館の講座を開催することがあります。

坂井輪地区公民館を例にとりますと、真砂小学校で親子の料理教室、坂井輪中学校では思春期のお子さんを抱える保護者の方に集まってお話し、「しゃべり場」などを開催しました。そこに教育専門の講師の方をお呼びし、ワークショップを実施した取り組みもあり、大変好評を得ております。

また、各地区の公民館では活動している色々なサークルがありますが、サークルの皆さんに指導に来てもらいたいという要請が学校からありましたら、公民館でお繋ぎしています。坂井東小学校では、毎年書初め大会を実施していますが、坂井輪地区公民館の書道サークルの皆さんから学校に行ってください、子ども達の書道指導を行っています。また、この書初め大会で書いた作品を坂井輪地区公民館に展示させていただきまして、地域の方からも毎年ご好評をいただいています。

学校と公民館も同じ教育という括りの中で、地域と結びつきの役割を果たせればということで、毎年行っています。学校からもそういうお話があれば、ぜひ公民館

にお話しいただき、講師の派遣や、あるいは学校を会場にした何かしらの講座を開催させていただければと思っています。

自治協委員

各地域で公民館の活性化が課題になっていて、公民館事業、生涯学習関係の事業を出前でやっている市町村が見られます。公民館長さんが言ったとおり、今のような形の活動をもっとPRして行ってほしいところです。

内野小学校は民間から校長先生が来ました。ある会で内野小学校長と意見交換をしましたが、教職員では発想が浮かばないようなことや素晴らしい意見を出していました。大阪府では公募の校長先生がみな辞めたということですが、新潟市には今も公募校長がおられますので、教育委員としても支えてやっていただきたいと思えます。

自治協委員

私も中学校の未来デザインの授業に参加させていただいき、こうやって子どもたちの地域提言が実現できるところまでやってきているんだなと思いました。内野中学校で取り組んでいます、地域への愛着を育む教育活動も、こうした活動を通して、どんどん広がっていったらいいなとも思いました。

子どもたちの成功体験につながる事業で、この地域盛り上げ隊の活動は1番愛着を育てていくものだと思うので、地域課長にはぜひこの取り組みを広げていけるよう支援をお願いします。

自治協委員

地域の愛着を深める大事なとっかかりは、地域教育コーディネーターなんだなと感じていました。なかなか1人では手を上げて参加できないという人を地域教育コーディネーターさんが声をかけたり、ボランティア同士が声をかけあったりして、大勢の地域の方々から集まっていただき取り組んできた、この地域と学校パートナーシップ事業もう12年目が終わろうとしています。本当に各学校にたくさんの人があふれて、子どもたちと接しているんだなと感じています。地域への愛情を深める教育で人を呼ぶときには、素晴らしい経験とか技術を持っている方はもちろんですが、普通に暮らしている方々も子どもたちに愛着を持って来てくださいます。そんな方にたくさん学校に来てもらい、子どもたちが大人になったときに同じことができる大人になってもらいたいと思います。

小学校でふれあいスクールなどで事業をやるときは、中学生がたくさんボランティアで来てくれます。地域のボランティアの方々は、その姿を見てすごく喜ばれます。自分たちが育てた子どもたちが中学に行き、高校に行き、大学に行っても新潟に戻ってきて、新潟で暮らし、地域の活性化に役立っている、そういう子どもたちがたくさんいれば1番良いことだと思いますが、新潟から離れても心の中で、小さいときに過ごした、この西区でこんなことをしてもらったなと思いつくような温かい体験があって、そういった気持ちを次の世代に返していけるような子どもたちを育てていきたいなと思って活動しています。

学校の中での、疑似的な、意識的な大家族というものを大事にして、大人も子ども

もへ愛着を感じる、子どもも地域に愛着を感じる、こんな取り組みが広がっていけばいいかなと感じています。

自治協委員

地域の愛着を育む教育のあり方についてはよく分かりましたし、現状と成果も大変よく分かりました。でも、私たちここにいる委員は、これから愛着だけで終わるわけではなく、これから人口減少問題に取り組まなければいけません。どのくらい的人数がUターンして帰って来たとか、そういう本当に細かい所から確認する手法を使ってやっていかないと、人口減少にはもうこれから太刀打ちできないという時代が来ています。これから取り組んでいくにあたって、ぜひ教育の現場の皆さまからアドバイスをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

司会

人口減少社会については、西区長とコミ協との意見交換の中でも、大学進学や就職の時期に若い世代が市外に流出しているという現状があって、それを変えていくことが課題として取り上げられています。

皆さんの中でわれこそはアドバイスしたいという方がおられれば。

内野中学校長

具体的な事例で紹介します。内野中学校の生徒が西幼稚園や西内野小学校の運動会などにボランティアでお手伝いに参加します。内野中学校に来ている学生ボランティアの中には、内野中学校を卒業して大学に行っている内野の子が来てくれています。これがもつつながっていくと、最終的にはサイクルとして、自分の出た地域とか、出身校にボランティアとして帰って来る、そんな形の関わりがちょっとずつ増えるのではないかと思います。

もう一つは教育課程です。小学校のときにも自分の地域の活躍した人とか、良い所を探すとかという教育課程を組んでいますが、中学校でもうちの例の話をする、1年生のときには自分の地域のどんな所が良いかというところで、小学校の振り返りをします。その中で公民館活動とリンクした活動がありますので、内野の公民館で芸能も含めて人との関わり合いの時間を置きます。2年生になると、今度は内野地域を中心とした職場で働いて体験活動をさせてもらいます。その前段階で1年生の終わりには職場訪問といって、どんな仕事ですかと質問をしてくることをします。2年生の終わりには修学旅行で内野や新潟と京都を比較してこようというのがあります。3年生の前半は、上級学校訪問として自分の進路のために学校を訪問してくるのですが、自分が今どういう進路を選択するかという勉強になっていきます。最後に地域提言として、自分が学んできて地域に何ができるかということ考えた上で自分の進路を自分で決めていきたいと思います、という学びになっているのです。

毎年、新川の清掃が春秋に1回ずつ、五十嵐浜の清掃が1回という形で、地域に出る行くボランティア活動が入っています。地域との関わりが年間の中でつながりながらスパイラルに上がり、地域を知って、地域の良さを実感し、地域の課題を発見して、自分の将来を決めていくという学びの教育課程を組むことで、将来に向けての提言ができる子どもが大人になり、地域を支える人間になってほしいと切に願って

います。

笠木小学校長 先ほど伝統芸能というお話がありましたが、資料にある樽と太鼓の写真、これが笠木小学校の「笠木樽砦」です。今子どもたちの人数が少なくなったので、3年生から取り組んでいます。3年、4年、5年、6年が一緒になって樽砦に取り組んでいるのですが、笠木小学校を卒業した子どもたちが、また教えに戻ってきてくれています。

指導に来てくれたり、ビデオの撮影に協力してくれたりして、中学生になっても、大学生になっても、卒業して社会人になっても関わりを持ってくれる子どもたちや大人がいることは宝だなと私は思っています。育った地域から一旦離れても、また戻ってきて、それを次世代につないでいってくれる人がいることはありがたく、そういうことがまた地域を盛り上げてくれるのではないかなと思っています。

沢野教育委員 伝統芸能とか郷土芸能というお話がありました。そういう場にお邪魔したときは、その伝統を伝えていくために、教える人の高齢化だったり、携わる人が少なかったりという大変さはよく聞きます。

私が内野の子ども会の役員だったときに、地域の音頭を発表してほしいということで、子供会の役員が集められまして、お祭りの前に婦人会の方からお稽古を付けていただきました。

笠木小学校の樽砦もそうですけれども、先輩から下の子どもに伝えていくというだけでなく、親がもう少し関わってほしいというのが、子育て経験者の私が最近感じるところです。

知る、そして体験する、そして発表の場といった、インがあつたらアウトがあるというのではないのでしょうか。笠木小学校では農作物を作って、それを販売することをやられているわけですが、そこまでいったときにまた体験できることもあると思います。そういう意味でも芸能ではそれを習ったら発表の場がある、そういうインとアウトが必要なのかなと思います。

子育てしている親に、もう少し出てきていただいて、こういうお話が伝わるころがあつたらいいのかなと思いました。

どうもありがとうございました。

上田教育委員 今日皆さんの話を聞きながら、何をするかということもとても大切だと思うのですが、どういう気持ちでそれに向かっているか、取り組んでいるかということも大切なことだと思いました。地域住民がとても熱い思いを持っていて、この地域が好きで、いろんなことに取り組んで、子どもたちの成長を願う、そういう地域の思いは向かい合っている子どもたちにもきつと通じて、子どもたちの成長の糧になっていくのではないかなと思っています。

新潟市の地域と学校パートナーシップ事業は、新潟市の中に入ると分からないけれども、各学校に地域教育コーディネーターさんがいらっしやって、地域の人が学校に来て一緒になって子どもたちを育てる、とてもすごい取り組みを今やっ



ます。その中で子どもたちが小学校、中学校と過ごしているのだなということを感じることもあり、そういう働きをされている皆さんもすごいなと思っています。

笠木小学校の校長先生からも、年月を重ねて、卒業した子どもたちが今度は地域の人として学校に関わっていることは、それもきっと新潟市が目指す一つではないかと思っています。

子どもたちが地域に根差すためには、地域が好きで、本当は戻りたいのだけれどもなかなか戻れない事情もあると思います。どうしても生活の糧が必要になるので、今後このような機会があれば会社の人からのお話があっても意義があると思います。

子どもたちにとっても、学校に会社や企業の人たちが来て、いろいろな仕事の話聞く機会を持って、交友を進めることで、また地元に戻ろうという意識が少しずつ増えていくかなと思いました。

私も今事業をしていますが、商工会やライオンズ、ロータリークラブでの話題の一つとして、地域の人口が減っていくことも問題になっています。この問題意識は同じところにあると思いますので、今後そういったことも検討して、課題の一つに加えていただいてもいいのではないかと思います。

今日はどうもありがとうございました。

## 議 事 5 西区自治協議会第2部会長挨拶

自治協委員 (第二部会長) 地域の愛着を育む教育のあり方について、たくさんのご意見、ご提案をいただくことができました。未来を担う西区の子どもたちが、これから地域に愛着を持って育てていくために、私たち参加している人たちが、協力しながら地域を知る、そして体験する、そして、それを地域に返していけるような、そんな活動の場をどんどん増やしていければいいのではないかなと思いました。

今日の教育ミーティングで出たご意見、ご提案を、ここにいらっしゃる皆さまそれぞれの立場で、できるところから少しずつ、大きいところは行政が一緒になって支援していただきながら進めていければありがたいなと思っています。

本当に皆さま、ありがとうございました。

## 6 閉会